

令和3年度学校評価(年間評価)

学校名 中津支援学校

| | |
|------------|---|
| 前年度評価結果の概要 | <p>○今年度作成した各教科等合わせた指導の「基本的な考え方」の改訂をもとに、次年度はPDCAサイクルを通じた改善を行い、授業力の向上につなげる。</p> <p>○「なりたい自分に必要な力」について、キャリア教育の観点との関連を確かめることができた。「本人・保護者の願い」について保護者と十分に協議し、目標設定を行うとともに、個別の指導計画、授業実践等の充実を図る。</p> <p>○ヒヤリハット報告の推進は、安全・安心な学校づくりの充実に大きく寄与。次年度は、児童生徒によるヒヤリハットに気づく教育実践を導入し、安全教育の充実を図る。</p> <p>○地域との交流について、感染対策を講じながら計画通りの実施ができた。次年度も引き続き、地域の教育資源を活用した学習活動を計画し、地域との交流の充実を図る。</p> <p>○さまざまな業務改善の実行により、学校全体の時間外勤務の減少につながった。ただし、分掌業務量の偏りにより、時間外勤務の個人差が出ている。分掌編制による標準化を狙う。</p> |
|------------|---|

| 学校教育目標 | 中期目標 | 重点目標 |
|---|---|---|
| 児童生徒一人一人の能力や特性に応じた教育を行い、その可能性をのばし、自立と社会参加を目指す人間を育成する。 | <p>○個の実態や特性を踏まえ、教育的ニーズに応じた質の高い教育活動の展開</p> <p>○生活保障・進路保障に向けた進路支援の充実</p> <p>○安全・安心な学校づくりのための教育環境の整備・改善・充実</p> | <p>○カリキュラム・マネジメントの推進</p> <p>○安全・安心な学校づくりの推進</p> <p>○児童生徒に向き合うための業務改善の推進</p> |

| 重点目標 | 達成(成果)指標 | 重点的取組 | 取組指標 | PL SL | 自己評価結果 | | 次年度の改善策 | 学校関係者評価 | |
|---------------------|---|---------------------------------------|---|---|--------|-------|---|--|--|
| | | | | | 評価 | 分析・考察 | | | |
| カリキュラム・マネジメントの推進 | 各教科の「個別の指導計画」を3本柱・3観点で作成(作成率100%) | ○新様式による「個別の指導計画」を全児童生徒作成 | <p>○5月:3本柱での目標設定・3観点での指導方法の研修</p> <p>○9月:教職員がR3年度前期分の個別の指導計画作成(1教科)</p> <p>○8月:主幹教諭がモデルとなる個別の指導計画を提示する。</p> <p>○8月:教職員が3本柱、3観点でのR3年度後期分の個別の指導計画作成(各教科)</p> <p>○9~11月:授業実践(外部講師を招聘しての研修)(2回)</p> <p>○1月:自立活動(流れ図)の研修</p> <p>○1~2月:3本柱、3観点でのR4年度個別の指導計画作成(各教科)</p> <p>○3月:「一人一事例集」の完成</p> | <p>PL: 研究・研修部「学校研究」担当</p> <p>SL: 教務部「個別の指導計画」担当、教務主任、研究主任、3主幹教諭</p> | 4 | 3 | <p>【達成度】</p> <p>○R3年度後期分の個別の指導計画(各教科)、R4年度前期分の個別の指導計画について、3本柱での目標、3観点での指導方法での作成100%を達成。</p> <p>○好事例を集約した「一人一事例集」の完成。</p> <p>【分析・考察】</p> <p>○作成過程を通して、児童生徒の実態や学びの履歴に照らし、新学習指導要領の考え方や段階に応じた目標設定や指導内容について深く考える機会となった。</p> <p>○外部講師を招聘した研修は、個別の指導計画作成に係る内容を設定したことで、該当研修後に個別の指導計画を作成・評価するにあたって効果的であった。</p> <p>●感染症対応での臨時休業による日程調整により、2月の自立活動の研修が学部会内での説明のみになり、自立活動についての十分な研修ができなかった。</p> | <p>○個別の指導計画について、3本柱での目標、3観点での指導方法で作成するための考え方については、一定の成果があったことから、個別の指導計画についての取り組みは終了とする。</p> <p>○学校目標・学部目標の達成に向け、個別の指導計画の目標設定の根拠を明確にするために、指導の形態別に年間指導計画の小学部~高等部までの系統性を整理する。</p> <p>○研修計画と内容を具体的に提示し、研修の量的負担を軽減する。</p> | 好事例を集約した「一人一事例集」を作成するのはとても大変だったと思うが、評価できる。 |
| | 授業にICTを活用する能力を昨年比10%増 ※R1、H30ともに69%(県73%) | ○児童生徒のタブレット端末の環境整備 | <p>○4月:PLSLで「活用する能力」の定義付け</p> <p>○6月:職員会議で周知、設定と基礎的な操作の研修①</p> <p>○7月:環境面についての職員アンケートを実施</p> <p>○8月:PLSLで改善案を設定。改善案及び活用に向けての校内研修②中間報告書作成。県提出。</p> <p>○9月~12月:授業でタブレットを活用した授業実践。</p> <p>○12月:環境整備及び活用に関する職員アンケートを実施、評価。最終報告書作成。県提出。</p> <p>○1月:中間・最終報告書をまとめて「活用事例集」を作成。</p> | <p>PL: 情報部主任</p> <p>SL: ICT活用推進委員、情報部総括主幹教諭</p> | 3 | 3 | <p>【達成度】</p> <p>○12月のアンケートの結果76%(昨年比7%増)。</p> <p>○教職員のタブレットを1学期中に完全配備。実践報告を2回実施。</p> <p>●高等部生徒のタブレット所有率50%程度。</p> <p>【分析・考察】</p> <p>○グループでの校内研修の実施により、困りへの対応、指導力の向上に繋がることができた。</p> <p>○評価が5月より下がった項目について、使用頻度の増加で、できることできないことが明確になったことが要因であると捉えている。</p> <p>●高等部の生徒全員が使用できなかったことから、実践が困難であった。</p> | <p>○今年度末に教員用、児童生徒用タブレットを整備し、次年度初めからの使用に向けた準備を行う。</p> <p>○研修内容のアンケートを実施し、ニーズに応じたグループ研修を実施する。</p> <p>○高等部のタブレット配備に向けて、保護者への説明を実施し、購入を促す必要がある。</p> | ・よくやっている。高等部でタブレットの所有率を上げるには保護者への興味付けやアプローチが必要であろう。卒業後の使い方の事例などが多く示せることの良いではないか。 |
| 安全・安心な学校づくりの推進 | 新型コロナウイルス感染症の指針策定及び指針実施率100% | ○「新しい生活様式」に基づいた新型コロナウイルス感染症の指針の策定及び実施 | <p>○4月:PLが文科省のガイドラインを基にした指針の策定・周知。</p> <p>○適宜:PLSLが文科省のガイドラインを基にした指針の改訂</p> <p>○10月1月:PLSLが感染症対策の保健指導を全校集会等で実施。</p> <p>○日常:全教職員が指針の実施。児童生徒の実態に応じた感染症対策(マスクの着用、手洗い、換気)の指導。各学部主事は、児童生徒の実施状況を確認・改善。管理職は県の感染状況によるフェーズの変更及び家庭への周知。</p> | <p>PL: 保健部「感染症対策」担当</p> <p>SL: 保健部主任、養護教諭</p> | 4 | 4 | <p>【達成度】</p> <p>○文部科学省のガイドラインを基にして策定した指針の適宜改訂と周知及び管理職によるフェーズの変更周知100%。</p> <p>○9月に手洗い、2月にマスクの着用について全校集会で保健指導を実施。</p> <p>【分析・考察】</p> <p>○感染状況に応じ全職員が指針に沿って授業等の方法を工夫し、予防に努めることができた。</p> <p>○全職員による日々のマスク着用や手洗い指導により正しい手洗いやマスク着用ができる児童生徒が増加。</p> | <p>○今年度も、必要に応じて指針の改訂を行うとともに、授業や活動の保障をしながら予防に努める。</p> <p>○指針策定及び改定の手続きをまとめ、感染症対策に関する指導について整理し、次年度の指導へ活かす。</p> | ・感染対策として、マスクの着用等の指導を全校集会で行うなど、全教職員による見える形での指導ができており、それがマスクの着用ができる児童生徒が増えることにつながっている。 |
| | 教職員のヒヤリハット報告200件及び児童生徒のヒヤリハット報告20件 | ○教職員の危機管理の向上及び児童生徒の安全教育の導入 | <p>○4月:PLSLが、ヒヤリハット目標設定数を周知。1学期70件以上、2学期90件以上、3学期40件以上。</p> <p>○5月9月2月:校長面談により、教職員がヒヤリハットの「目標設定」「評価」「改善」を実施。</p> <p>○毎月:PLSLが学部会で事例・改善策の共有。</p> <p>○毎月:高等部生徒を対象としたヒヤリハットに気づく安全教育の実施(月1回以上)。</p> <p>○毎月:生徒からのヒヤリハット報告(月2件以上)。</p> | <p>PL: 高等部作業学習担当</p> <p>SL: 小・中学部副学部長、保健部「安全整備」担当</p> | 4 | 4 | <p>【達成度】</p> <p>○教職員ヒヤリハット報告204件(1月末)。</p> <p>○生徒ヒヤリハット報告37件(1月末)。</p> <p>【分析・考察】</p> <p>○会議スペースでヒヤリハット報告を共有し、学部会で事例・改善策を共有することで、ヒヤリハットへの意識を高めることができた。</p> <p>○各作業班の安全教育の取り組みを共有することで、安全教育への意識を高めることができた。</p> <p>○生徒の報告を、教員のコメント・改善した様子の写真とともに廊下に掲示することで、生徒にヒヤリハット報告への意欲を高めることができた。</p> <p>●高等部の取組を3階廊下に掲示したため、他学部等が知る機会が少なかった。</p> | <p>○今年度の取り組みを引き続き実施し、危機管理の向上、及び児童生徒の安全教育の充実を図る。</p> <p>○児童生徒の委員会にて生徒主体での取り組みに移行させ、児童生徒からのヒヤリハット報告を会議スペースで全校の教職員に共有する。</p> | ・よい取り組みである。ヒヤリハット報告にどのような事例が多いのか、大まかに項目を挙げて分類してあげると分かりやすいのではないかな。 |
| 児童生徒に向き合うための業務改善の推進 | 職員アンケートで「風通しのよい職場とを感じる」回答率90%以上 | ○「風通しのよい職場づくりプログラム」の立案・実行 | <p>○4月:PLSLが、プログラムを立案・周知</p> <p>○5月:教職員がプログラムに基づき個別の目標設定。面談実施。</p> <p>○7月:教職員が取組実行。目標管理シートに自己評価実施。</p> <p>○9月:PLSLが中間評価実施(アンケート・ストレスチェック集計)</p> <p>○10月:PLSLが評価による改善策を設定。教職員が実行。</p> <p>○1月:PLSLが期末評価実施(アンケート・ストレスチェック集計)</p> | <p>PL: 衛生管理者</p> <p>SL: 教頭</p> | 3 | 3 | <p>【達成度】</p> <p>○期末アンケートにて、「風通しのよい職場と感じる」回答率89.1%でほぼ目標値を達成。</p> <p>○時間外勤務では、R2年度(7月~1月)とR3年度を比較すると、月平均-2.3時間(減少)と成果を上げた。</p> <p>【分析・考察】</p> <p>○会議時間の削減、自己の時間マネジメント等は、個人や役割による意識や工夫で成果が出た。</p> <p>●時間の捻出はできたが、『風通しのよい職場』の根幹である「意欲をもって業務にあたる職場」「児童生徒の実態を把握し適切な支援ができる職場」に近づけるための具体的施策が必要。</p> | <p>○学校行事、分掌学部の行事等の精選を行うとともに、児童生徒に向き合うための時間を確保するための業務改善が必要である。</p> | ・限られた時間の中で、児童生徒と向き合うための時間を確保するための業務改善は難しい課題であるが、着実に改善している。 |

| | |
|------------------|--|
| 総合評価 次年度への展望等 | <p>○新様式による個別の指導計画の作成は、一定の成果があった。ただし、次年度は、活用、共有、授業の深まりをねらうために、さらに研究・研修をすすめる。</p> <p>○タブレット端末の環境整備では、一定の成果があった。次年度は、ニーズに応じたグループ研修の実施により、教員の活用力を高める。また、高等部の配備に向けた取組が更に必要と考える。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症では、指針の策定・実施により、授業や活動の保障しながら予防に努めることができた。次年度も引き続き、指針の改訂、実施を行う。</p> <p>○教員のヒヤリハットの取組は定着してきた。次年度も引き続き行う。また、高等部で実施した児童生徒のヒヤリハットの取組のノウハウを小・中・高部へも引継ぎ、さらなる安全・安心な学校づくりに取り組む。</p> <p>○業務削減・業務改善により、児童生徒に向き合うための時間を確保することをねらう。</p> <p>○学校の立地条件を活かし、地域と連携したキャリア教育をすすめていく。</p> |
|------------------|--|